

2020年度 JIA 東北支部運営・活動方針

公益社団法人 日本建築家協会 東北支部長 進藤勝人

会員の皆様に於かれましては、日頃より JIA の会員として建築家として、支部活動、復興支援・まちづくり支援、さらには業務を通しての社会貢献に対し敬意と感謝を申し上げます。

昨年は、東北では 10 年振りとなる、JIA 建築家大会 2019 青森 in HIROSAKI を無事大成功で終えることができ、東北の会員の皆様の行動力と結束力をあらためて感じることもできた、実りある 1 年だったように感じます。大会後の評判も良く東北を十分アピールできたと思います。そこで今年はさらなるアピールとして JIA 東北建築展を開催したいと考えております。社会に対し発信の場を作ります。

今、社会は少子高齢化に伴い縮小する社会を迎えています。

学校、企業、住宅団地等の統廃合が進む中、建築のあり方も凄まじい速さで変化しています。

縮小する建築環境の中、我々建築家も合理化と豊かさを踏まえ、新たな建築の形を提案していかなければなりません。まちづくりや住宅、教育施設、福祉施設等これからの建築のあり方を話し合い社会に対し様々な提案や働きかけをしていければと思います。

また、東日本大震災から 9 年が経過し、来年には 10 年の節目を迎えます。

南海トラフや関東大震災など新たな災害の発生が予想される中、東日本大震災の経験をまとめ、発信する作業に取り掛かる必要性を感じている所です。10 年目に何が発信できるか会員の皆様と話し合いながら進めていきたいと思っています。

また、建築家・設計事務所の「業務改善・設計者選定（コンペ・プロポ、入札・最低制限価格、多様な発注方式、発注者責任）・設計報酬」への取り組み、「魅力ある職場、働き方改革」への取り組み、「AI・BIM・IoT」などの技術革新への取り組み、会員の減少、高齢化などの問題を抱える「JIA の組織」の在り方などの課題への取り組みを引き続き進めていきたいと考えます。

最後になりますが、ホームページの JIA の歴史にこんな一文を見つけました。

社会に貢献する建築家団体-現代の建築家は単に設計の発注者のための代理人であってはなりません。

その建築が街並み、都市景観に責任を持つだけではなく、地球環境に対しても配慮しなければなりません。建築家協会は美しく、安全な都市建築をつくろうとした創成期の建築家の意思を日本の建築家の祖とも言える重源の無私心、社会奉仕の心を受け継ぎ、120 年の伝統を踏まえるだけでなく、新しい時代の役割をしっかりと認識し、今日、建築家の社会公共に貢献するための団体として活動していきます。建築家のあり方・役割についても改めて話し合っていければと思います。

2020年度 主な骨子 「縮小する社会の中での建築のあり方について考える」

1. 「建築のあり方」縮小する社会の中の建築のあり方をテーマに講演会・建築展を行う
住宅大賞や学生賞に少子高齢化の配慮を盛り込む
2. 「復興」被災 3 県の各地域会の復興支援活動へ継続支援と支援を行うと共に、他支部への災害支援と防災・減災への支援をおこなう。10 年目の発信に向けてこれまでの復興支援活動や復興建築の取り組みと、今後の課題等をまとめる。
3. 「地域会」各地域で行われる公益的地域会活動が支部活動の主体であることを引き続き、定着させ、その活動が円滑に進められるよう支援します。
4. 「会員」 「正会員・準会員（専門会員・シニア会員・ジュニア会員・学生会員）・協力会員」の入会促進と「登録建築家」への登録促進。
5. 「事業」 第 14 回東北住宅大賞 2020 の開催、第 24 回東北建築学生賞とテクニカセミナーの開催。空き地・空き家リノベーションコンペの開催支援。歴史的建造物・遺構の保存再生活用などのまちづくり支援・JIA 東北建築展の開催
6. 「会員交流」 「JIA 建築家大会」を通して全国の会員、海外の建築家協会との交流促進。
7. 「行政他団体」 東北公共建築設計懇談会・建築設計関連団体サミットや他の会議体を通して、行政・事務所協会・士会・学会・建設業協会等との協力・連携を強化し、行政への業務改善やまちづくりに対しての要望などを展開する。